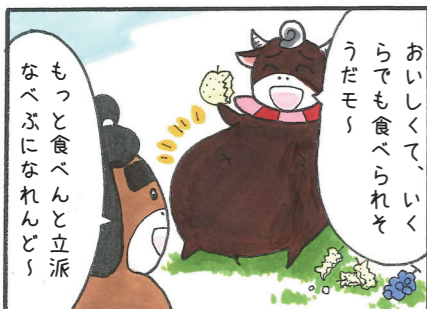
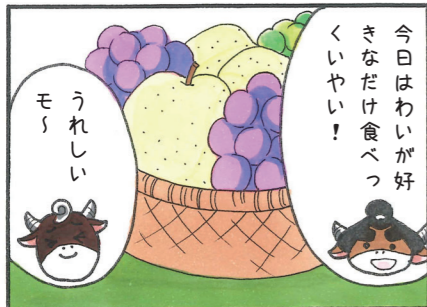


画：友安よーいち
第97話「梨・ぶどう狩り？」



広報紙へのご意見・ご感想をお気軽にお寄せください



読んだ感想や、こんな情報が知りたい、この人取材してほしいなどのご意見を、QRコードからお寄せください。

心の花びら

里へ里へはち切れそうな帰雀列車（小林合歓の会 倉田玲子）
夏椿みじかきさかりめでてみる（小林合歓の会 入佐典子）
夕涼み昔は多く外遊び（小林合歓の会 青山スミ子）
雨止みて再び行けば炎天下（小林合歓の会 後野美美子）
たおやかやすぎたる時よアイスクリーム
（小林合歓の会 尾辻和子）
移住者の白き菌の美し夏の海（小林合歓の会 大坪由美子）
貯水槽露草伸びて隠れゆく（小林合歓の会 今西由美子）
夏の陽もかげりゆく庭の草をとる流れ落ちる汗にまみれて
（佐枝記子）
正に鰻長茄子かば焼き二匹ペロリ（長友正臣）
儘ならぬ墓参も出来ずもうお盆老いましたと父母に両手を合わす
（永友チエ）
さみだれの四方見渡せば霧の中若葉燃え立つまぶしく返す
（前満英子）
迎え火と送り火する習慣がいつしかとだえ言葉さえ消え
（武ナミ子）

SUKU SUKU すくすく



高野 真奈 ちゃん
令和2年2月27日生
高野 司 くん
平成30年9月14日生

高野 真奈 ちゃん
令和2年2月27日生

これからも2人で仲良く助け合って大きくなってね♡大好きだよー！
保護者：高野誠、美紀

すくすく募集中！

必要事項をメールか、Google フォームから送信してください。

◆必要事項

①子どもの名前、ふりがな、生年月日、性別／②掲載する写真／③保護者の名前／④コメント（50文字以内）

【申・問】・地方創生課 mail info@city.kobayashi.lg.jp



Google フォーム

<編集後記>

今号から高校生記者クラブの記事も掲載されるハッシュページが始まり、instagram との連動企画もスタートしますので、小林の素敵な写真をどんどん送ってください（榎田）

全国和牛能力共進会の県代表牛が決定しました。小林市からは6頭が出品予定です。後日、出品者のインタビューなどを掲載した特別号を発行予定ですので、お楽しみに！（前原）

小林市立図書館
問=TEL 22-7913

図書館からのお知らせ

★新刊本の入荷は毎週土曜



宮崎県立図書館の本を
小林市立図書館で借れます！

マイラインサービス

市立図書館に読みたい本の所蔵が無くても、県立図書館に所蔵がある場合に借り寄せることができるサービスです。市立図書館カウンターで申込み・本の受け取り・返却ができます。

検索 県立図書館ホームページか市立図書館カウンターで借りたい本を検索

申込 市立図書館カウンターで申込用紙記入

貸出 県立図書館から届いた本を市立図書館で貸し出し（配送料はいりません）

返却 市立図書館カウンターで返却

～一般書～



『蹴れ、彦五郎』
著者：今村 翔吾
発行：祥伝社

～一般書～



『世界でいちばん素敵な数学の教室』
監修：永野 裕之
発行：三オブックス

休館と開館時間

【本館】毎週月曜は休館

◆開館時間 9時～19時 ※日曜と祝日は17時まで

【須木分館】毎週月曜と祝日は休館

◆開館時間 9時～17時

【野尻分館】毎週月曜と祝日は休館

◆開館時間 10時～18時30分 ※日曜は17時まで

毎月1日は館内整理日のため全館（本館・須木・野尻）休館

文化の足跡



▲写真上段：米良筑後守重方の墓（一麟寺跡）、写真下段：米良筑後守重方の首が収められたとされる首桶（内部）

節目の戦いから450年
～須木に眠る戦国武将～

今年は、元龜3年（1572）の木崎原の戦いから450年にあたります。当時この地域を領有していた伊東氏は、島津氏の領地であるえびの市木崎原に進軍し、両軍が激突することになりました。結果は島津氏が勝利をおさめ、それ以降私たちの小林は島津領となり江戸時代をむかえます。

その時戦死した伊東氏の武将の中に米良筑後守重方がいました。重方は当時須木城の城主であり、米良氏一族は南北朝時代より須木を治めてきた由緒ある一族です。

そのなかでも重方は、伊東氏の家臣として小林城の戦いや飢餓で戦いで戦功をあげたとされる知

勇兼備の将でした。

須木城だけでなく小林城も任されていましたが、木崎原の戦いで戦死しました。その際、重方の首は島津義弘の首実検の後、首桶に収められ米良家の菩提寺であった須木地区の一麟寺に葬られたとされています。

現在、重方の墓が須木城から西に約500mのところにある一麟寺跡に残されています。また、重方の首が収められていたとされる首桶が須木総合ふるさとセンターに展示されています。首桶は、直径25センチ、高さ20センチの蓋付きの筒型で、檜の薄板を曲げて桜の皮で留めてあり、丁寧な作りのものです。